おーぷん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第93号2023年度末号』
発行：さざんか会法人本部/船橋市行田2-8-1/☎047-404-1135
編集：おーぷん編集委員会/けいよう/船橋市二和西5-10-1/☎047-411-8177

おーぷん93.号目次

P１「支援することとは」
さざんか会 理事長 宮代隆治

P３ 寄稿『卒園にあたって』
・「卒園を迎えて」
とらのこキッズ保護者
甲斐 麻里緒
・「美しい世界」
さざんかキッズ保護者
齋藤 知子
（敬称略）

P５ 北総の里だより
・北総育成園
・笹川なずな工房

P７ 各事業所春だより
・のまる
・カメリアハウス
・けいよう
・ゆたか福祉苑
・グループホーム
・さざんかキッズ
・とらのこキッズ

『支援することとは』

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

大変大きく報道され、周知のこととなりました。北海道は江差市にある障害福祉サービス事業を手広く展開する社会福祉法人で、グループホーム入居者が結婚や同棲を希望する時は、不妊の処置を20年以上前から条件化し、それを拒否した場合法人が提供する福祉サービスの利用を止めてもらう、が約束であったとのことでした。結果、これまで8組16人のカップルが同意して不妊の処置に到ったとのこと。報道によると、法人側は「授かる命の保障はしかねる。子供に障がいがあったり、養育不全と言われた場合や、成長した子供が『なぜ生まれたんだ』といった時に、誰が責任を取るんだという話だ」、「子どもを育てるために職員を雇っているわけではない」等と答えた、とありました。

この発言を聞き、唖然とさせられましたし、障がいのある人を支援するとはどういうことなのか、改めて考えさせられています。

まず前段の発言ですが、優生思想丸出しですね。優生思想と対峙し、私たちは障がいのある人たちへのサービス提供という実践を通して、その撲滅に努めなければならないところ、障害

福祉サービスの提供を生業とする者が〝障がいを持って生まれることは不幸〟と仰っているようです。後段については、確かにグループホームに於ける事業者の職務に「出産や子育て」について入居者を支援する、等ということは書いてありません。元来、この制度の中にグループホームに暮らすカップルの出産は想定されていないようです。想定されていないのだから、私たちはやる必要はないのでしょうか。

昔、こんなことがありました。さざんか会が運営する通所施設でのことです。ダウン症30歳代のAさんはお母さんと二人で暮らしていました。ある朝、送迎車でAさんを迎えに行きますが、いつもの場所にAさんが見えません。至急ご自宅に電話を掛けますが、応答がありません。不安を感じた職員はAさん宅へ駆け足です。そこで、玄関に倒れているお母さんを発見、頭部から若干の出血の跡が見て取れます。添乗職員の一人がAさん宅に残り、救急車を呼び病院へ同行しました。Aさんはこの出来事を正確には理解できず、炬燵に入りぼんやりの態です。そして、お母さんはそのまま入院となってしまいました。さぁ、その日からAさんの暮らしはどうなるのか。入所施設へ緊急一時保護、これが妥当な対応なのでしょうが、お母さんは断固拒否されます。「見ず知らずのところへ連れて行かないで」と。恐らく、Aさんも同じ思いでしょう、「いつも、一緒にいたい」。一刻も早く元の生活に戻るため、お母さんには心安らかに回復に努めて貰わなければなりません。

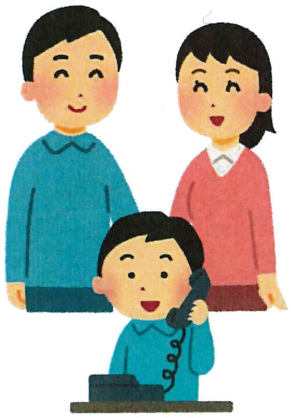
早速この事態を市のワーカーさんに連絡、関係者が至急集まり会議を持ちました。障害福祉課、生活支援課、病院のワーカーさん等。

ヘルパーさんの派遣や退院後の通院のこと等母子二人の生活を支える手立てが講じられましたが、24時間365日とは行きません。「内では、ここまでできます」、「内もここまでは…」。それではどうしても空白、足りない場面が露見しています。お母さんの健康状態から、当分目は離せないけど空白の場面が生じてしまいそう。Aさんの入浴や食事も心配です。そこで、土日に施設の職員が御宅に伺い、生活に支障のないようお手伝いすることとしました。昔のこととて、限られた制度の未熟な社会資源下でのことです。

色々な障害福祉サービスの制度があり、各々にその目的があります。それらの利用を通じて、私たちはその人の生活と、時には人生そのものと関わりを持つことになります。当然できないこともありますが、可能な限りその人が望むような生活を送って頂きたいのです。そんな手立てが、新たなサービスを生むかもしれませんし、そんなことで汗を流すのも、この仕事に必須な調味料のような気もするのです。「制度にないからやらない、できない」ではなく、「どうしたらできるのか」を考えたいのです。

障がいのあるカップルの子育てについて、もう一つのお話を。

私事にて恐縮ですが、家内は長い間聾学校の寄宿舎で寮母(教官職)をしていました。たくさんの教え子がいます。中にはその聾学校で知り合い、卒業後に結婚するカップルもあります。そんな二人がパパとママになって幼子を伴い、拙宅を訪ねてくれることがありました。夕食をご馳走し、暗い中を自家用車で帰って行きます。それから2時間も過ぎた頃でしょうか、電話が鳴ります。「今、着いたよ」、幼い男の子の声です。我が家にファックスのない頃、耳の不自由な両親に代わり無事な帰宅を幼子が告げてくれました。多分パパやママに頼まれたのでしょう。その時思いました、「きっとこの子はいい子に育つに違いない」と。



【卒園を迎えて】

我が家の次男として生まれてきた悠成1歳の頃に、なかなか目が合わない、家族の呼びかけに無反応、触られるのを嫌がる等、違和感を持つ行動が目立ち始めました。「もしかしたら何かしらの障害があるのかもしれない」、そう思い色々な所に相談に行きましたが、まだ小さかった事もあり「様子を見ましょう」としか言われず。悠成の為に早く何とかしてあげたいのにどうする事も出来ず、焦りと不安で毎日とても辛かったです。

3歳になる年に親子教室に通い始め、これでようやく悠成にとって成長できる場所を見つけたと喜んだのも束の間。いざ通い始めると、椅子に座れない、先生に話しかけられるだけで床に頭を打ちつける、とにかく泣いて暴れる悠成を抱き抱えるだけで精一杯でした。ぐったりしながら家に帰ってきても、悠成の癇癪や当時ハマっていたコップの水を床にこぼし、その様子をひたすら観察するという謎の遊びが待っていました。

この頃に自閉症と軽度の知的障害の診断がつきました。

親子教室に通っているうちに周りのお母さん達から「悠成君〇〇出来るようになったね！」「悠成君〇〇上手だね！」と私の気付かない悠成の良い所を褒めてもらう事が増えました。何も出来ないと決めつけてしまっていたけれど、確実に成長しているんだと気付かせてもらいました。

年中でとらのこキッズに入園する頃には、簡単な単語が言えるようになり、癇癪もほぼ無くなりました。

とらのこキッズの先生方は、悠成の不明瞭な言葉にも耳を傾けて正しい発音や単語、伝え方を教えてくれました。悠成も言葉でのコミュニケーションの楽しさを覚えたのか、家でも沢山おしゃべりしてくれます。苦手な事も先生方のおかげで少しずつ取り組める様になりました。

今の悠成は、よく笑い、よく遊び、人が大好きで、とてもひょうきんです。親子教室で床に頭を打ち付けていた頃とは別人の様です。

先生方や、今まで出会ってきたお母様方の支えと協力のおかげで悠成だけでなく、私も成長させてもらえました。本当に感謝しています。

4月から小学生です。また新しい環境で一からのスタートです。前の私なら不安で一杯だったと思いますが今は違います。とらのこキッズで培った経験や自信が悠成の体に刻み込まれている筈です。大変な事があっても、きっと悠成なら乗り越えてくれると信じています。家族みんなで悠成のこれからの成長を見守り、笑顔で一杯の日々を過ごしていきたいと思っています。

とらのこキッズ　保護者
甲斐　麻里緒

「美しい世界」

息子の瑛太が医師から自閉症の診断を受けたのは、令和元年11月、3歳6ヶ月の時です。4つ年上のお兄ちゃんが2歳の頃には言葉で会話し、歌も歌っていた為、2歳になっても言葉を発さない瑛太を見て不安になっていました。意思疎通ができない分、癇癪も酷くなっていきました。そんな息子を理解したい、理解しようとすればする程空回りし、母親である私は毎日の不安や苛立ちで八つ当たりするように息子に手をあげてしまうこともありました。2歳の幼児健診で、言葉の遅れについて相談しました。「個人差もあるし大丈夫」と言われたのもあり、瑛太と会話できる日がきっと来るとまだ望みを持っていました。「お願い、しゃべって…」。気づくとそのことばかりを考え、話している瑛太の夢を何度も見ました。夢か…、と目覚めては失望感に包まれる日々でした。

お兄ちゃんと同じ幼稚園に一緒に通う予定だったお友達とプレにも通いました。同じ園服を着て同じバスに乗って一緒に通えると思いたかったのです…。しかし、プレに通うちに明らかに同じ教室のお友達と違う瑛太の行動を目の当たりにします。まず先生の指示を全く聞かない。1人で教室中をぐるぐる走る。違う教室に移動する度に癇癪を起こす。園庭に座りこみ砂をいじったまま動こうとしない。徐々にこの幼稚園に通えないのか…、と心が沈んでいきました。

それでも一緒に通うはずだったお友達と瑛太が園庭で遊ぶ姿を1日でも多く見ていたくてプレをやめられずにいました。今日で最後と決めた日は、園庭で一緒に心ゆくまで遊ばせてもらい、帰り道は、涙で前が見えなくなるほど泣いてしまいました。この時、とても辛い現実を自分自身がやっと受け容れたのだと思います。お友達とそのママには今でも感謝しています。

1日の殆どの時間を瑛太と2人きりで過ごす毎日に私のメンタルも崩壊寸前でした。そんな中、さざんかキッズの存在は一筋の光でした。奇跡的に年少の9月から入園することができ約2年半、夢のような幸せな日々を過ごすことが出来ました。瑛太の世界を勝手に暗くしていたのは私だったのだと気づく事が出来ました。さざんかキッズの先生方、沢山の素敵なお友達との園生活はキラキラと輝いて美しい世界でした。そんな世界を私に見せてくれた瑛太に感謝しています。子供がどんな状態でも受け容れ寄り添い続け、ひとかたならぬ愛情を注いでくださった先生方には、心から敬意を表し感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。また、保護者の方々やお友達の存在にもどれだけ助けられ、支えられてきたか計り知れません。心から感謝しています。

4月から、特別支援学校へ入学します。これからも苦難はあると思います。それでも、さざんかキッズでの出逢いと経験を心の支えに息子と一緒に成長していきたいと思います。

さざんかキッズ保護者
齋藤　知子

北総の里だより

北総育成園

「小さなことからこつこつと」

副園長　白樫　久子

小さなことに忠実でありなさい。そこにあなたの強さが宿るのですから」。これは、マザーテレサの言葉です。

北総では毎年1月、利用者さんの個別総括会議が行われます。4月に作成した「個別支援計画」に基づいて、この1年担任としてどう関わってきたか、健康面や身体面の変化と対応などについて資料を作り、話し合います。観察記録や作業日誌、日直・夜勤日誌などを振り返りこの1年をまとめます。4月に出来ていたことが要介護になることもあります。例えば食事、箸からスプーンに、または普通食から「おかゆ・刻み食」に替えた人もいます。行動面では、不眠やトイレや自室の場所がわからなくなる方が一人二人と増えています。歩行や移動が要介助になっている人は、トイレや洗面所に近い個室に移動します。担任からの情報を職員全員で共有しあい、今後の支援に生かします。

「ありのまま工芸班」は、元々農耕班や林産班、園芸班などで作業していた利用者さんで介護や健康観察が必要になった方達を受け入れています。その人に合わせた運動（ウオーキング・ボール投げ・輪投げ・体操など）と、作業は「ひょうたん」を取り入れています。農耕班で収穫し種抜きをしたひょうたんを、利用者さんが根気強く磨きます。大きいひょうたん、小さなひょうたん、真ん丸なひょうたん、細長いひょうたん、ちょっと傾いだひょうたん。皆、それぞれの表情があります。そこに担当職員さんが色んなアイディアと細工をします。悪霊退散のアマビエ、クリスマスのサンタ、節分の鬼、そして今はひな人形を売り出しています。まだまだ量産は出来ないけど、玄関前に飾られていたので思わず手に取りました。多古の道の駅にも搬入したそうです。なんと愛らしいのでしょう。職員さんが楽しく心を込めて作成してくれたことが良く分かります。「ひょうたんを磨く」この人達の仕事を大切にしてくれている姿勢に感謝します。

『ありのまま工芸班』作業の様子

「小さなことに忠実でありなさい。そこにあなたの強さが宿るのですから」。大きな課題を目の前にしたとき、我々はどう向き合うか。目の前のできることから逃げずにまず取り組むこと。皆で協力し合ってこつこつと。そうして仕事を積み重ねていけば確実に大きな課題に近づいていくはずです。

コロナ禍からもう3年。感染対策を継続しつつも、利用者さんの買い物や外食、販売活動、行事も小さなことから再開しています。近くのお花屋さんから季節のお花をたくさん配達して頂き、館内にいい香りを漂わせてくれています。利用者さん職員さんは皆、毎日「小さなことからこつこつと」、北総の暮らしを重ねています。そうしてもうすぐ新年度を迎える季節となりました。マスクは外せませんが、皆笑顔で桜の季節を迎えたいと思います。来年度も宜しくお願い申し上げます。

表情豊かな愛らしいひょうたん人形たち

笹川なずな工房

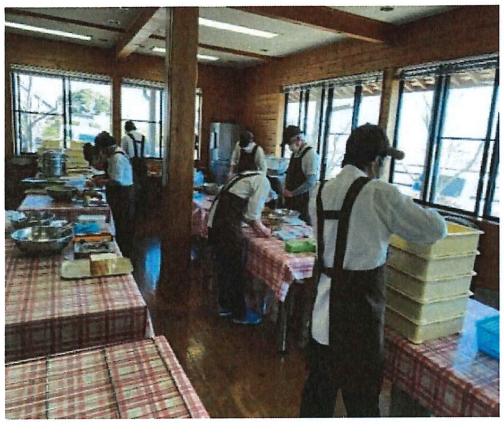
「笹川なずな工房に入職して」

支援員　佐々木　貴子

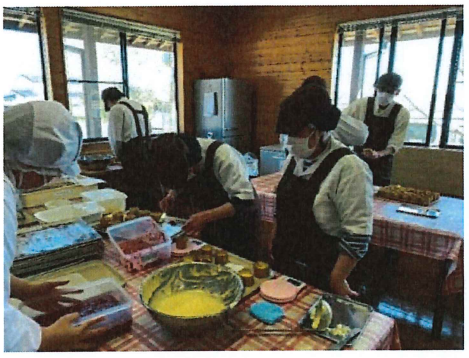
私が笹川なずな工房に入職し早いもので半年が経とうしています。以前北総育成園に勤めていたこともあり二十数年ぶりに訪れた北総の地はとても懐かしくもあり月日の流れを改めて実感しました。正直体力も頭もついていけるのか・・・。

もう決めた以上やるしかない！と迎えた初日は大きな不安と緊張で一杯でした。そんな中、なずな工房から見える景色、遠くに鹿島臨海工業地帯が見え田園風景が広がる広い台地はとても落ち着く清々しい気持ちにさせてくれました。全てがゼロからの出発です。右も左もわからず何名かの懐かしい顔ぶれにホッとしました。

始めは職員と利用者の名前と顔を覚えることに苦労しました。私が配属となった製パン班は帽子とマスクを付けているため、皆が同じに見えてしまうので何度も名前を聞いてしまったり、声をかけようにもすぐに名前が出てきませんでした。そこに加工班、農産班のメンバーが加わりしばらく混乱した状態でした。それも朝の受け入れを経験することで、徐々に覚えられるようになりました。製パン班では当初、目の前の作業をこなすのが精一杯で、周りを見る余裕が全くありませんでしたが、少しずつ作業の流れが解ってくると、声掛けもできるようになってきました。まだまだ利用者さんから教えてもらう事ばかりです。一つずつ覚えていきたいと思います。

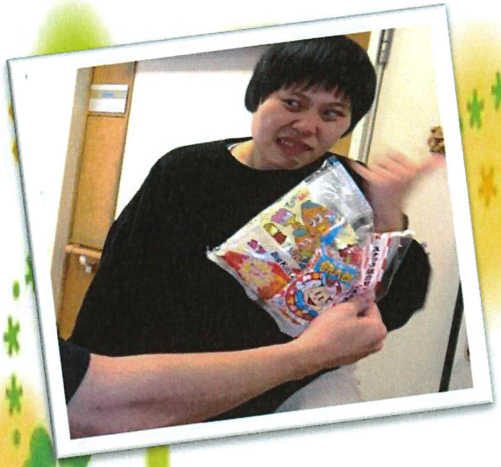


また、先輩職員のテキパキとしたフットワークの良さや同時進行でいくつもの作業をこなす姿は、尊敬の眼差しでしかありません。



製パン班では、まだまだ覚えることが沢山あり、今は生地の仕込みや分割、バターロール成形、マフィン製造を中心に作業をしています。バターロールの成型では、先輩職員の作る姿を見ると簡単そうに見えますが、いざやってみると生地の伸ばし具合や力加減が難しく、均一に伸びずに曲がってしまうと、巻いた時に形がいびつになり中々同じ形になりません。また、マフィン製造では、マフィンカップにスプーンで生地を入れた際にカップの周りに生地が垂れてしまいこれも思うように進みません。先輩職員や利用者さんとのスピードの違いに愕然としながら、とにかく回数を重ねていく他ありません。日々努力の毎日です。焼きあがったパンの袋入れも然り、利用者さんの慣れた手つきで次々と入れていく姿に、長年なずな工房で培った作業の力は賜物だと実感しております。私も一日も早く皆と同じようになりたいと思います。それにはまずはやってみる、たくさん失敗を重ねて経験を積む事で覚えていきたいと思います。

また、工房内の会議や虐待防止研修等、自分自身のスキルを上げる事で一歩ずつ支援員としての道のりを歩んでいきたいと思います。今後ともご指導よろしくお願いします。



のまる

新型コロナウイルスの影響で活動の自粛はまだ続いていますが、のまるは日々元気に過ごしています。

2月5日（日）に新年最初のイベント『芋煮会』を開催しましたので、紹介したいと思います。

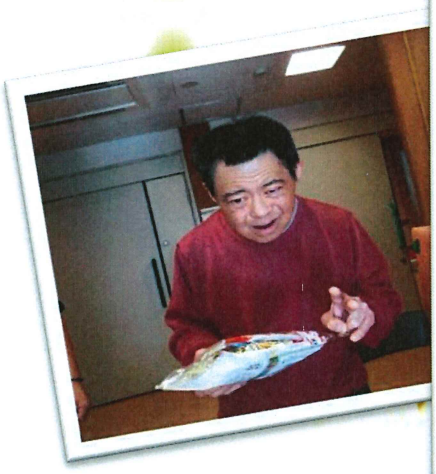
一日でも早く皆さんで集まりイベントを開催したいのですが、今回も感染症対策に努めながら、縮小した形で行いました。

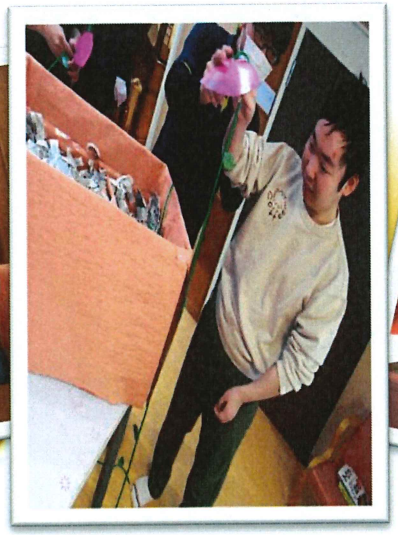
気分が上がるような音楽が聴こえてくると利用者さんの明るい声も響いてきました。スタッフが用意したくじ引きで景品のお菓子が当たり、利用者さんの更に喜んだ姿を見ることができました。

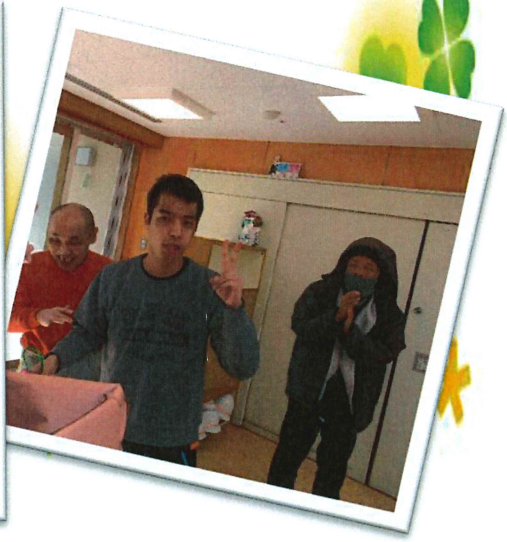
皆さんが楽しみにされている昼食は、具沢山の豚汁や甘酒等が並び、わくわくして待っている方や笑顔で召し上がっている方等様々でした。今後も利用者さんの楽しみが増える様に試行錯誤していきます。

少しずつ寒さが緩んできて春が近くまで訪れている様ですが、寒い日はまだ続きます。

体調管理に気をつけて、残り少ない今年度をのまる全体で乗り越えたいと思います。







カメリアハウス

東葛エリアも農福連携に力を！というＪＡ東葛さんからのお誘いを受けて今年度から三須トマト農園での仕事が始まりました。郊外から足を運ぶ方もいらっしゃるこだわりのトマトを販売する農園さんです！現在は毎週金曜日の午前にみっちり３時間働かせていただき、主な作業内容はシーズンによって異なりますが剪定後の清掃をメインで行っています。ハウス内は害虫等の予防の為、外との履物は別にするなど気を付ける部分も多いですが、今後はポスティング業務も入る予定ですので幅広い方々に携わっていただきたいと思っています！素敵なホームページがありますので「三須トマト農園」で検索して頂き機会がありましたらご賞味ください！

けいよう

２月３日に、班ごとで節分を楽しみました。かぶとを作ったり、豆まきの練習をしたりと班ごとに準備万端で当日を迎えました。当日は、鬼に扮した職員が各部屋を回り、「鬼は外!!福は内!!」と豆まきを楽しみました。最後は鬼に扮した職員と一緒に笑顔で写真撮影をしました。

ゆたか福祉苑

春の陽気を感じられる日も増え嬉しい反面、花粉症にも悩まされる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

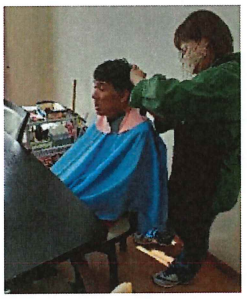
ゆたか福祉苑では一月に【キッチンカー】イベントを行いました。初めてたこ焼きのキッチンカーがやってくるという事で、ご利用者の皆様も職員も一緒にワクワクしていました。引換券を渡され、ジュースとたこ焼きを引き替え、嬉しそうに部屋に持ち帰る方、部屋に運ばれたジュースとたこ焼きを見て、待ちきれないかのように準備をする職員の周りから様子を窺っている方、皆さん、食べる前からキラキラした眼差しをされていて、職員も一緒にとても楽しい時間を過ごさせていただきました。

これを機に、ご利用者の皆様に楽しんで頂けるような行事が色々と開催できるようになることを心より願っております。

ホーム便り

今回は、たんごで利用している訪問理容について紹介していきたいと思います。

現在、たんごでは訪問理容の「ビューティヘルパー」を利用しています。訪問というだけありホームまできていただきリビングにて散髪されています。



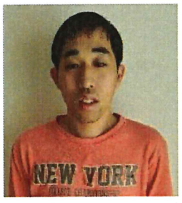
このように入居者の方々はご自身のホームで切ることができ、順番が来るまで居室で待っていただくこともできる為、切られる際もリラックスされています。

中には髪型について担当の方と相談されながら切られる方もおり、段々と自分が変わっていく様子を鏡でみて嬉しくなられたのかニヤニヤと笑顔がこぼれていました。

今回は短めが良いとのことで仕上がりに満足そうにされています。

Before

After



最後はリビングに落ちた髪の毛も綺麗に掃除をして終了となります。

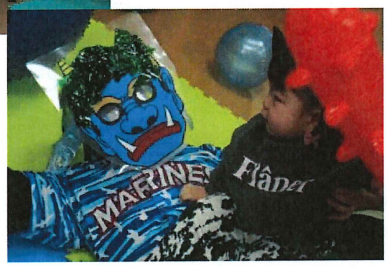
元々、コロナ禍の外出自粛をきっかけに始めたものでしたが今では大助かりの訪問理容です。

さざんかキッズ

年が明けて獅子舞集会や2月には節分など、今年も1年元気に過ごせるように様々な行事がありました♪

獅子舞集会ではお正月遊びを紹介し、クラスごとに羽根つき遊びをしました！普段はやらない遊びにみんな楽しんでいたようです☺

節分では鬼が登場し、新聞紙で作ったボールを鬼に投げました鬼を怖がる子や全然へっちゃらな子、子どもたちの色々な様子を見ることができました。

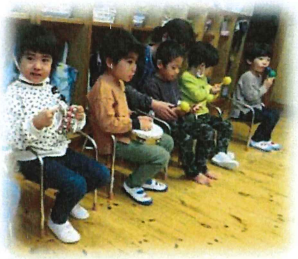


とらのこきっず

1月にはししまい・2月には豆まき集会をクラス毎に行ないました。

獅子舞に頭を噛んでもらったり、豆まき集会では、鬼に新聞紙で作った豆を投げました最後には鬼からメダルのプレゼントも貰いました♡

今年度もコロナ禍ではありましたが、保護者の方のご理解、ご協力を頂き「行事」を行なう事が出来ました。子ども達はもちろん私達職員にとっても大切な経験になりました。毎日、子ども達の元気な声と笑い声に溢れるとらのこキッズです。この1年間で楽しい思い出が沢山できていたら嬉しいです☺これからも応援していています!!

「みんな仲間だ！

エイ！エイ！オー!!」